

## 平成29年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立松任高等学校

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準		集計結果	分析（成果と課題）及び改善策
① 授業規律の維持に努め、落ち着いた学習環境のもと、確かな学力を身に付けさせ、進路実現を支援する。	①すべての生徒が授業を受ける基本的态度を身につけるように指導する。	私（生徒）は A 私語や居眠りをせず授業に集中し、いつでも発言ができるよう積極的に授業に参加している。 B 私語や居眠りをせず、集中して授業を受けている。 C 集中力に欠け、私語や居眠りをすることがある。 D 集中することができず、私語や居眠りをよくする。	C、Dの割合が10%を超えた場合、各教科・学年で指導法を見直す。	A 22.2% B 49.9% C 24.9% D 3.0% C+D 27.9%	昨年度の最終評価C+D 31.3%と比較すると、3.4%とわずかにがら向上した。昨年度から授業規律の徹底を指導してきたが、さらに改善が必要なレベルである。7月に立ちあがたプロジェクトチームを中心に組織的に取り組んでいく。
	② ICT活用、A・L導入等授業の工夫、授業公開・校内授業研究会の充実等をとおして、授業力の向上を図り、生徒の理解を深める。	私（生徒）は A 授業がよく理解でき、学力が高まった。 B 授業がある程度理解でき、少し学力が高まった。 C 少し理解できないところがあるが、何とか授業についていけている。 D 授業が理解できず、授業についていけなかった。	C、Dの割合が10%を超えた場合、各教科・学年で指導法を見直す。	A 12.0% B 54.7% C 28.5% D 4.7% C+D 33.2%	昨年度の最終評価C+D 34.8%と比較すると、1.6%のちがいしか見られない。授業ではiPad等ICTの活用やアクティブラーニングの導入等が積極的に行われているが、成果が不十分である。学年別にA+Bの割合を見ると、1年65%、2年70%、3年66%と、ややばらつきがある。授業評価の結果と照らし合わせて改善策を検討する。
	③家庭での学習習慣の確立を図り、家庭学習時間の増加を目指す。	平均1日1時間を超えている生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上60%未満である。 C 40%以上50%未満である。 D 40%未満である。	CまたはDの場合、あるいは0時間の生徒がいる場合は各教科・学年で指導法を改善する。	2時間以上 6.0% 1時間以上 28.5% 1時間未満 38.0% 0時間 27.5% A+B 34.5% 評価D	勉強を全くしない生徒の人数は、学年別にみると1年32人、2年34人、3年62人と学年を追うごとに増えている。特に3年生が1・2年生より家庭学習時間は少なかった。7月には3年生の家庭学習時間は1・2年生と同程度に回復しているが3年生としては少ないことは問題であり、指導を徹底する必要がある。
	④図書だよりの発行やホームページの掲載記事で、読書活動を啓発するとともに、図書委員会活動を活発にして、図書委員による図書館づくりを目指す。	年間の図書室利用者数が A 6,000名以上である。 B 5,500名以上6,000名未満である。 C 5,000名以上5,500名未満である。 D 5,000名未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	8月末現在 延べ2163名	昨年度同月2457名と比較して、延べ300名近く減少した。昨年度は毎日図書室に通う生徒がいたので増えたが、今年度は例年並み。図書委員を中心とした貸出ポイントラリー等、昨年同様のイベントを継続実施することに加え、各階ラウンジでの図書展示等を活発に行って利用者数の増加につなげたい。
	⑤3年生の進学希望者に対しガイダンス機能を高め、個々に応じた指導や支援体制を強化する。	3年生進学希望者で自分の入試結果に満足している生徒が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	12月の調査で評価する。	
	⑥3年生の就職希望者全員の内定を実現するとともに、内定先の満足率100%を目指す。	3年生就職希望者で自分の内定先に満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	12月の調査で評価する。	

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準		集計結果	分析（成果と課題）及び改善策
②挨拶の励行、端正な服装容儀、遅刻・欠席の減少等、のぞましい生活習慣を確立させ、心豊かで安心感のある学校づくりを促進する。	①職員全員で登校指導時に遅刻防止を呼びかけるとともに、定期的に集会で啓発する。挨拶運動に合わせて、遅刻防止を呼びかける。	月ごとおよび年間の遅刻回数0の生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合 は、指導法を見直す。	8月末現在 84.7%	昨年度までは遅刻0日の日数を基準に達成度を判断していたが、体調不良など常習的な生徒がおり、実態が反映されにくかったため、今年度から改めた。
	②職員は学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。	職員はいじめの早期発見に努めるとともに、いじめを察知した場合には職員間で必要な情報を共有し、迅速に対応できていると評価する職員の割合が A 100%である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	当てはまる 13.3% 大体 57.8% あまり 28.9% 全く 0.0% A+B 71.1% 評価D	教職員アンケートでは心の問題の早期発見と情報共有として質問しているが、いじめについても同様に100%を目指す必要がある。
	③環境委員を中心にゴミの分別やゴミのポイ捨て禁止等の活動を実施して、生徒全体に対して、環境整備・エコ意識を向上させる。	自分はエコ活動に日常的に取り組んでいると評価する生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	Dの場合、意識向上のためエコに関する講演会等の行事を行う。	当てはまる 13.1% 大体 35.1% あまり 37.3% 全く 14.6% A+B 48.2% 評価D	昨年度の最終評価49.9%から、さらに1.7%低下している。特に3年生で全く当てはまらない生徒が18.2%（昨年度2年生同時期14.3%）と多くなっており、小中学校での指導の効果が高校で低下しているおそれがある。社会に出てからも同様の取り組みが必要であるため、意識の改革を行っていきたい。
	④生徒が端正な服装、容疑で学校生活に臨むことができるようとする。	自分は服装、容儀を端正に整えて学校生活に臨んでいると思う生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 60%未満である。	CまたはDの場合、指導法を見直す。	当てはまる 48.4% 大体 41.8% あまり 8.8% 全く 1.1% A+B 90.2% 評価A	学校生活のあらゆる場面で、学校を挙げて指導してきた成果である。今後も指導を継続していかなければならない。
	⑤職員が緊密に連携して、問題を抱える生徒の早期発見と支援及び問題行動の未然防止ができるようにする。	職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、チームで生徒の支援ができていると評価する職員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	Dの場合、職員間の連携のあり方を再検討する。	当てはまる 11.4% 大体 75.0% あまり 13.6% 全く 0.0% A+B 86.4% 評価B	100%を目指して職員全員がさらに努めていく必要がある。

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準		集計結果	分析（成果と課題）及び改善策
3 体力の向上に努め、部活動・生徒会活動の活性化を推進し、心身ともに健やかな生徒を育成する。	①部活動加入を促進と共に継続して部活動に参加することの大切さを理解させる。	継続して部活動をしている生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	5月1日加入率 運動部 45.2% 文化部 29.8% 合計 75.0% 10月に再調査し比較する。	昨年度同月調査では運動部50.5%、文化部31.6%、合計82.1%、昨年度末合計79.4%（1年87.4→86.9%、2年71.4→70.9%）であり、すべて低下している。
	②朝の挨拶運動に参加する生徒を増やすために、生徒会が率先して玄関に立ち、声かけをする。	挨拶運動に参加する生徒の割合が A 30%以上である。 B 25%以上30%未満である。 C 20%以上25%未満である。 D 20%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	4月 405人 5月 92人 6月 83人 計 580人 月平均 193人 38%	昨年度同月評価36%、最終評価Aであった。今年度も継続指導を行っている。4月には部活動単位、5・6月にはクラス単位で玄関に立ち、登校する生徒と挨拶を交わしている。また生徒会執行部が中心となって、自転車マナー指導の際にも挨拶運動を行った。
	③春の外周走（男子2km女子1.5km）のタイムを測定後、全体のベースアップを目指したサーキットトレーニングを体育の導入時に実施し、心肺機能と全身持久率の向上を目指す。	春と秋のタイムを比較して向上した生徒が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	12月の調査で評価する。	
4 学校の取り組みや生徒の活動への理解を深めるため、広報活動の充実を図り、保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。	①学年や各課からの通信の発行やホームページの更新を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	広報活動（各種通信、メール配信、HP等）が充実しており学校の取り組みに対して理解が深まったと答える保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上80%未満である C 60%以上70%未満である D 60%未満である	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	当てはまる 20.3% 大体 60.3% あまり 17.8% 全く 1.8% A+B 80.6% 評価A	昨年度の最終評価Dから大きく改善した。今年度から、メール配信について、1年生の保護者には3月の仮入学から、2・3年生の保護者には4月から繰り返しお知らせし、登録をお願いした。また、ホームページの更新やメール配信における教員の手続きを簡素化し、スピーディーな情報発信に努めている。さらに文部科学省の研究指定について全国から関心を持たれており、ホームページの閲覧数が伸びていると思われる。
	②生徒会、各種委員会、学年、部活動での地域交流や貢献活動への参加の機会を増やす。	外部（地域）の活動に参加した生徒の延べ人数が A 600人以上である。 B 500人以上600人未満である。 C 400人以上500人未満である。 D 500人未満である。	CまたはDの場合、取り組みを再検討する。	8月末現在 623人	1学期には、合唱部の施設訪問演奏、図書委員の俳句交流、まつのねくんを活用した九谷焼イベント等を行った。2学期以降、吹奏楽部の施設訪問演奏、有志生徒のマルシェ・ドゥ・ハクサンへの参加等も行う予定である。

